

## 研究資料

## 精神科臨床で求められる看護実践能力について

<sup>1</sup>木村 洋子 <sup>2</sup>長谷川 雅美<sup>1</sup>同志社女子大学・看護学部・看護学科・准教授  
<sup>2</sup>富山福祉短期大学・専攻科・看護学専攻・特任教授

## Nuring Competency Required in Clinical Psychiatry

<sup>1</sup>KIMURA Yoko <sup>2</sup>HASEGAWA Masami<sup>1</sup>Department of Nursing, Faculty of Nursing,  
Doshisha Women's College of Liberal Arts, Associate professor  
<sup>2</sup>Department of Nurs, Toyama College of Welfare Science, Professor

## I. はじめに

平成16年9月厚生労働省（厚生労働省、2004）は「精神保健福祉施策の改革ビジョン」を発表した。「入院医療中心から地域生活中心へ」の基本理念に則ってさまざまな施策が推進されてきた。なかでも、精神科病床の機能分化によりさらに高い専門性が求められ、地域生活支援強化により、さらに退院支援が求められるようになった。伊豫（2009）の報告によると、看護師は長期入院患者の退院支援に1ヶ月あたり平均31時間をかけ、地域生活に適応できるように生活技能訓練や社会資源の体験への同行及び患者の退院に対する不安や困難さへの対応をしていると述べている。

精神科病棟で勤務する看護師は看護の対象である精神疾患を持つ人の精神疾患から生じる生活障害に対して生活支援を行い、病状や環境から揺れ動く心の変化を機敏に察知し対応するなど求められるものは決して少なくない。

## II. 目的

本研究では、精神科病院で求められる看護実践能力について明らかにし、看護基礎教育における基礎的資料とすることを目的とした。

## III. 方法

医中誌 WEB版を用いて、「精神科」「看護実践能力」を

キーワードとして、「原著論文」に絞って検索を行った結果、25文献が該当した。

## IV. 結果

医中誌 WEB版を活用して抽出した25文献のうち、重複しているもの1件、入手不可能なもの1件、臨床判断についての研究1件、看護実践能力について詳細な記述がないもの13件、既存の評価尺度を活用し、看護実践能力について詳細な記載がないもの2件を分析対象から除外し、7文献を分析対象とした（表1）。

それぞれの分析対象文献から、「看護実践能力」について記述されている箇所を抜き出した。抜き出した138箇所を類似と相違の観点から比較検討し、類似する記述を集約し、カテゴリー化をおこなった。カテゴリーは精神科看護における専門に特化したものと基盤となるものという視点で整理した（表2）。

なお、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〈 〉として示す。

## 1. 精神科病棟で求められる看護実践能力（基盤となるもの）

精神科病棟で求められる看護実践能力（基盤となるもの）は【専門的な知識】【専門的な看護技術】【看護職者として備えておくべき能力】であった。

【専門的な知識】は精神医学や精神看護で必要とされる

表 1. 対象文献一覧

	著者	タイトル	出典	論文の種類	目的	看護実践能力についての具体的な内容	定義の記載
1	青木 周二, 前田 修二	看護実践能力の向上と教育体制整備への取り組み. 院内アンケート調査から見えてきた病棟特性	日本精神科看護学会誌, 64(1), 442-443, 2021.	原著論文	各病棟で必要とされる知識や技術を明確にする。	・疾患理解・行動制限・CVPPP 技法の知識及び技術・安全管理・接遇・感染などの知識と行動・専門性の高い精神科看護・精神関連法の理解・薬物療法・身体合併症看護・回復期看護・ABA・退院支援・WRAP・ストレングス・クライシスプラン・身体合併症看護・発達障害・認知症看護・発達・薬物療法・退院支援(調整)・身体合併症看護・行動制限・暴力対策・認知症・発達障害・長期患者の地域移行・身体合併症看護・ARF・CRF・アディクション・身体合併症看護(代謝・消化器疾患)・ASD・LGBT・愛着障害・トラウマ治療などへの看護・学校や児童相談所などの多施設連携・ASD・ADHD・ED の看護・発達段階・家族支援(母子関係, 愛着)・集団アプローチ・成人・児童の知識技術・コミュニケーション技術・地域ケア・多職種連携・家族支援	なし
2	福田 大祐, 森 千鶴	精神科看護職者の看護実践能力評価尺度の作成	日本精神保健看護学会誌, 30(1), 1-11, 2021.	原著論文	精神科看護職者の看護実践能力を評価する尺度を作成し信頼性と妥当性を検討する。	・患者-看護師関係, 専門知識, チーム医療, 医療の質と安全・リカバリー・ヘルスプロモーション・人権擁護, 倫理的・専門的・法的責任・自己研鑽・患者-看護師関係を形成する力, 専門知識を活用する力・患者の主体性を引き出す力・安全なケアを意識する力・自己研鑽を続ける力	看護実践能力とは、看護実践における専門的責任を果たすために必要な個人特性、専門的姿勢、行動、そして専門知識と技術に基づいたケア能力という一連の属性を發揮できる能力である(高瀬, 2011)。
3	近藤 美也子, 井上 誠, 麻生 啓司	精神科看護に携わる看護師に求められる看護実践能力 精神科看護師が重要視する知識や技術の意識調査から	看護・保健科学研究誌, 20(1), 12-21, 2020.	原著論文	職業ストレス並びに学生との関わりや学生指導にあたってのストレス、肯定的な認識の各要因が精神科看護師の看護実践能力及び対象認識に及ぼす影響を明らかにする。	・コミュニケーション能力・自己研鑽力・対人関係能力・情報収集力・アセスメント能力・情報発信力・人権擁護力・専門的な観察力・柔軟な対応力・自己防衛力・自己コントロール力・洞察力・肯定的な思考力	なし
4	大井 美樹, 徳永 淳也	精神看護実習における学生指導員とおよびストレスが看護実践能力におよぼす影響	九州看護福祉大学紀要, 19(1), 3-18, 2019.	原著論文	精神科経験の短い看護師と長い看護師との精神科看護実践能力の自己評価を統計的に比較し、差異や特徴を明らかにする。	・対人関係・コミュニケーション・対象理解・看護過程・看護技術・メンバースhip・リーダーシップ, リーダークラス, 専門職生習力	看護実践能力とは、看護で必要とされる対人関係、対象理解、看護過程展開、看護技術、チームワーク、専門職としての生涯学習といった総合的な能力のことである。
5	矢野 正文, 橋本 純一	精神科看護における勤務経験と看護実践能力について 若手看護師とベテラン看護師の看護実践能力自己評価の結果から	日本精神科看護学会誌, 56(1), 196-197, 2013.	原著論文 / 比較研究	精神科医療の現状を反映した新しい精神看護実践能力開発プログラムを作成し、その実践過程を評価し、今後取り組むべき課題を明らかにする。	・精神症状のアセスメント・身体症状のアセスメント・精神症状対応・身体症状対応・関係づくり・安心への関わり・自立への関わり・リハビリテーション・ケアマネジメント・精神疾患病態・精神科療法・身体疾患病態・身体疾患療法・制度と社会資源・患者の個別性	なし
6	山岸 松永, 安藤 美津子, 伊藤 久代, 菊地 ひろ子, 江口 八千代, 小川 明子, 山藤 文子	精神看護実践能力開発プログラムの構築とその実践の評価 新人教育プログラムを実施して	木村看護教育振興財団看護研究集録, 16, 167-188, 2009.	原著論文	精神科看護の現状を反映した新しい精神看護実践能力開発プログラムを作成し、その実践過程を評価し、今後取り組むべき課題を明らかにする。	・精神疾患論・心理教育・家族心理教育・精神薬理学・リハビリテーション期の患者・家族の理解・心理社会的療法の理解及び実践と日常生活への汎化への援助・多職種連携と看護師の役割・精神障害者の社会資源の特徴・援助における人間関係・対人関係技術・精神保健福祉法の変遷・精神保健福祉法の概要・行動制限・地域精神看護(社会復帰活動)・精神保健・障害者福祉法に基づく社会復帰療法, 地域精神保健施策)・精神科救急急性期看護(精神科救急医療システムが理解できる, 救急・急性期における精神状態を知る。危機的状況の心理状態を知る。意識障害の種類がわかる。自殺・自殺企図について, 対処法が理解できる)・老年期精神看護(加齢性機能障害について理解できる, 加齢性器質性精神障害について理解できる)・思春期・青年期精神看護(児童思春期精神障害の特徴がわかる)・心神喪失者等医療観察法(医療観察法における医療について指導, 助言を受けて看護ができる)・人権擁護・安全な環境	なし
7	藤野間 やよひ	看護実践能力の向上をめざす精神科クリニカルラダーの作成	日本看護学会論文集(看護管理), 37, 358-360, 2007.	原著論文	精神科クリニカルラダーを作成し、精神科に特有な項目であるアセスメントと実践能力について活用できるか明らかにする。	・治療的実践の提供・患者-看護師関係形成・心の安定を図るケア技術の活用・自我機能(現実認識を高める, 意思決定を促す, 対処能力を高める)を高めるケアの提供・生涯を抱えた生活の自己管理への支援・行動制限時の安全なケアの提供・家族支援, 社会復帰への支援	なし

表 2. 精神臨床で必要とされる看護実践能力

カテゴリー	サブカテゴリー	記述内容		
急性期	システムの理解	精神科救急急性期看護 (精神科救急医療システムが理解できる)	急性期における精神状態を知る。	意識障害の種類がわかる。
	疾患理解	危機的状況の心理状態を知る。	自殺企図について、対処法が理解できる	自殺
	看護	専門性の高い精神科看護		
回復期	疾患理解	リハビリテーション期の患者		
	治療	リハビリテーション		
	看護	リカバリー ストレングス 地域精神看護 (社会復帰活動)	WRAP 回復期看護 ケアマネジメント	クライシスプラン 社会復帰への支援 ヘルスプロモーション
児童・思春期	疾患理解	発達障害 ASD 青年期精神看護 (児童思春期精神障害の特徴がわかる)	発達障害 ADHD	ASD 愛着障害
	治療	ABA		
	看護	EDの看護	トラウマ治療などへの看護	
アルコール関連	疾患理解	アディクション		
	治療	ARP	CRFT	
身体合併症	疾患理解	身体疾患病態		
	治療	身体疾患治療		
	看護	身体症状のアセスメント 身体合併症看護 身体合併症看護 (代謝・消化器疾患)	身体症状対応 身体合併症看護	身体合併症看護 身体合併症看護
老年期	疾患理解	老年期精神看護 (加齢性機能障害について理解できる、加齢性気質性精神障害について理解できる)		認知症
	看護	認知症看護		
専門的な知識	専門的知識	専門知識	専門的	専門知識を活用する力
		発達	発達段階	LGBT
		成人	思春期	児童の知識技術
	精神疾患・病態	精神疾患病態	精神疾患論	
	薬物療法	精神科療法	薬物療法	薬物療法
		精神薬理学		
	心理・社会的治療	集団アプローチ	心理社会的療法の理解及び実践と日常生活への汎化への援助	
	施策・社会資源	精神障害者の社会資源の特徴	精神保健、障害者福祉法に基づく社会復帰施策、地域精神保健施策)	
		制度と社会資源		
	精神保健福祉法	精神保健福祉法の概要 法的責任	精神保健福祉法の変遷	精神関連法の理解
	医療観察法	心神喪失者等医療観察法 (医療観察法における医療について理解し、助言を受けて看護ができる)		
	行動制限	行動制限	行動制限	行動制限
	行動制限時の看護	行動制限時の安全なケアの提供		
倫理的視点	倫理的視点			
専門的な看護技術	退院支援	退院支援	退院支援 (調整)	長期患者の地域移行
		地域ケア		
	家族支援	家族支援	家族支援	家族支援 (母子関係、愛着)
	心理教育	家族心理教育	心理教育	
	対象を理解する	家族の理解	対象理解	疾患理解
		看護過程	専門的な観察力	情報収集力
		アセスメント能力	精神症状のアセスメント	問題解決
		患者の個性	精神症状対応	看護技術
	患者-看護師関係の構築	患者-看護師関係	患者-看護師関係を形成する力	患者-看護師関係形成
		関係づくり	援助における人間関係	対人関係
		対人関係技術	対人関係能力	肯定的な思考力
		コミュニケーション	コミュニケーション技術	コミュニケーション能力
	洞察力			
心の安定を図る関わり	安心への関わり	心の安定を図るケア技術の活用	治療的環境の提供	
	柔軟な対応力	接遇		
安全を保つ関わり	安全なケアを意識する力	安全な環境	安全管理	
	感染などの知識と行動	CVPPP 技法の知識及び技術	暴力対策	
主体性を高める関わり	患者の主体性を引き出す力	自我機能 (現実認識を高める、意思決定を促す、対処能力を高める) を高めるケアの提供		
自立を促す関わり	自立への関わり	障害を抱えた生活の自己管理への支援		
人権擁護	人権擁護	人権擁護	人権擁護力	
多職種連携	多職種連携	多職種連携と看護師の役割	学校や児童相談所などの多施設連携	
チーム医療	チーム医療	メンバーシップ・リーダーシップ	情報発信力	
看護職者として備えておくべき能力	自己コントロール力	自己コントロール力	自己防衛力	
	自己研鑽	自己研鑽	自己研鑽を続ける力	自己研鑽力
		専門職生涯学習力		

〈専門的知識〉〈精神疾患・病態〉、治療としての〈薬物療法〉〈心理・社会的治療〉が含まれた。精神科医療の前提となる〈精神保健福祉法〉〈医療観察法〉、さまざまな〈施策・社会資源〉、精神福祉法のもとでの〈行動制限〉等が含まれた。

【専門的な看護技術】には精神看護を行う上で必要となる〈患者－看護師関係の構築〉や〈対象を理解する〉、〈人権擁護〉、具体的な関わりとしての〈心の安定を図る関わり〉や〈安全を保つ関わり〉、〈主体性を高める関わり〉や〈自立を促す関わり〉が含まれた。さらに、地域生活への移行を促進するための〈退院支援〉や〈他職種連携〉、〈チーム医療〉が含まれた。精神疾患の再発・再燃を予防するための〈退院支援〉や〈家族支援〉、〈心理教育〉が含まれた。

【看護職として備えておくべき能力】として、〈自己コントロール力〉と〈自己研鑽〉が含まれた。

## 2. 精神科病棟で求められる看護実践能力（専門に特化したもの）

精神科病棟で求められる看護実践能力（専門に特化したもの）は【急性期】【回復期】【児童・思春期】【アルコール関連】【身体合併症】【老年期】に整理された。

【急性期】では〈（精神科救急）システムの理解〉や急性期の症状や危機的状況の心理状態、意識障害や自殺など救急・急性期病棟で多く見られる症状についての〈疾患理解〉が求められ、それぞれに特化した専門性の高い〈看護〉が求められた。

【回復期】では回復期にある対象者を理解し、適切な看護を提要するために〈疾患理解〉と〈治療〉が求められ、対象者の回復を支えるためのリカバリーやストレスに着目した〈看護〉が求められた。

【児童・思春期】では、発達障害や Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder（以下、ADHD と示す）、愛着障害などの〈疾患理解〉と実施される〈治療〉、学習障害者やトラウマ治療等への〈看護〉が求められた。

【アルコール関連】では、アディクションについて〈疾患理解〉が求められ、アルコール依存症リハビリテーションプログラム（以下、ARP と示す）や Community Reinforcement and Family Training（以下、CRAFT と示す）などアルコール関連障害で行われる〈治療〉について求められた。

【身体合併症】ではその疾患や治療など〈疾患理解〉や〈治療〉を、〈身体合併症の看護〉ではアセスメントとその対応等が求められた。

【老年期】では特に、老年期精神障害についての〈疾患理解〉と〈看護〉が求められた。

## V. まとめ

今回、精神科病院で求められる看護実践能力について、文献を活用して整理した。

精神科病院では、基盤となるものとして、【専門的知識】や【専門的な看護技術】、【看護職者として備えておくべき能力】を求め、さらに配属された病棟の専門性に合わせて、さらに専門特化した能力が求められることが明らかとなった。

看護基礎教育においては、少なくとも、精神科で求められる看護実践能力のうち、精神疾患・治療、関連する法律や施策などについての「専門的知識」と、「対象を理解する」や「患者－看護師関係を構築する」、「心の安定を図る」や「安全を保つ」などの「専門的な看護技術」、「看護職として備えておくべき能力」を基盤となるものとして修得する必要がある。さらに、精神科専門機能分化に合わせて、「急性期」では「急性期における精神状態」「自殺企図について、その対処」を、「回復期」では「リハビリテーション期にある患者」を理解することや治療としての「リハビリテーション」や「ストレス」に着目し、「リカバリー」を志向する関わりなど、精神科の専門それぞれについても「理解できる」レベルを目指して教育活動を行う必要がある。

## V. 文献

- 青木 周二, 前田 修二 (2021) : 看護実践能力の向上と教育体制整備への取り組み 院内アンケート調査から見えてきた病棟特性, 日本精神科看護学術集會誌, 64(1), 442-443, 2021.
- 伊豫 雅臣, 椎名 明大, 松原 三郎 (2009) : 退院促進に関する精神医療の質的実態把握と最適化, 精神神経医学, 111(9), 1165-1170, 2009.
- 大井 美樹, 徳永 淳也 (2019) : 精神看護実習における学生指導関与およびストレスが看護実践能力におよぼす影響, 九州看護福祉大学紀要, 19(1), 3-18, 2019.
- 厚生労働省 : <https://www.mhlw.go.jp/topics/2004/09/dl/tp0902-1a.pdf>. (最終閲覧日 : 2022.7.15).
- 近藤 美也子, 井上 誠, 麻生 浩司 (2020) : 精神科看護に携わる看護師に求められる看護実践能力 精神科看護師

---

が重要視する知識や技術の意識調査から，看護・保健科学研究誌，20(1)，12-21，2020.

福田 大祐，森 千鶴 (2021)：精神科看護職者の看護実践能力評価尺度の作成，日本精神保健看護学会誌，30(1)，1-11，2021.

藤野間 やよひ (2007)：看護実践能力の向上をめざす精神科クリニカルラダーの作成，日本看護学会論文集（看護管理），37，358-360，2007.

矢野 正文，橋本 純一 (2013)：精神科看護における勤務経験と看護実践能力について 若手看護師とベテラン看護師の看護実践能力自己評価の結果から，日本精神科看護学術集会誌，56(1)，196-197，2013.

柳澤雄太 (2019)：精神科救急・急性期医療における地域移行，IRYOU，73(7)，376-380，2019.

山岸 松永，安藤 美津子，伊藤 久代，菊地 ひろ子，江口 八千代，小川 明子，山蔭 文子 (2008)：精神看護実践能力開発プログラムの構築とその実践の評価 新人教育プログラムを実施して，木村看護教育振興財団看護研究集録，16，167-188，2009.

